

作 物	農薬名（成分名）	特 性	対象雑草名	処理法	使 用 上 の 注 意 事 項
果樹類 （かんきつを除く）	ブリグロックスL ジクワット パラコート	非ホルモン型の非選択接触性除草剤であり、光合成過程で生じた本剤の過酸化物が細胞を破壊し殺草する。殺草には光が必要である。毒物であるため取扱には特に注意する。	一 年 生 雑 草	雑草茎葉散布	1. 薬液が作物に直接かかると激しい薬害を生ずる。また、若木や果実が地表近くに垂れ下がる作物は特に注意する。 2. 散布ムラになると効果が劣るのでていねいに散布する。 3. 晴天乾燥時の日中はむしろ効果が低下するので夕方または曇天に散布する。 4. 宿根草は地上部を枯死させるが再生が早い。 5. 展着剤（非イオン系）を加用する。
かんきつ			多 年 生 雑 草		
			ス ギ ナ		
			一 年 生 雑 草		
			多 年 生 雑 草		
			ス ギ ナ ツ ュ ク サ		
果樹類	レグロックス ジクワット	非ホルモン型の非選択接触性除草剤であり、光合成過程で生じた本剤の過酸化物が細胞を破壊し殺草する。殺草には光が必要である。劇物であるため取扱には特に注意する。	果樹園下草一年	雑草茎葉散布	1. 雑草のみに散布し、作物にかからないよう注意する。 2. 広葉雑草に効果が高い。 3. 展着剤（非イオン系）を加用すると効果が高くなる。
果樹類 （かんきつ、パイナップルを除く）	カルナクス 草枯らしMIC グリホサートイソプロピルアミン塩	非選択性の吸収移行型の除草剤で、茎葉部から吸収され、主として芳香族アミノ酸の生合成阻害によって殺草する。	一 年 生 雑 草	雑草茎葉散布	1. 作物の茎葉に薬液が飛散すると薬害を生ずる。 2. 散布後 6 時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見極めてから散布する。 3. 展着剤の加用は必要ない。 4. 接触移行型であるため、土壌処理効果がないので、雑草に均一に散布する。
かんきつ			多 年 生 雑 草		
果樹類 （かんきつを除く）	サンフーロン液剤 グリホサートイソプロピルアミン塩		一 年 生 雑 草	雑草茎葉散布	5. 殺草効果は散布水量より散布濃度に影響されるので草種別使用薬量を守る。 6. 殺草効果は雑草の生育最盛期ほど高くなる。 7. 効果の完成がやや遅いので、散布後 7 ～ 10 日間は刈取り耕起は行わない。 8. 宿根草にも殺草効果が高いので、法面等での使用は土壌流亡に注意する。 9. 薬液調製には濁水等を使用しない。 10. 少量散布には、専用ノズル（ラウンドノズル 25 等）を使用する。 11. 移行性が強いことから、薬液が台木、根等から発生するヒコバエに付着すると樹勢低下や果実生産への悪影響が懸念される。薬液がヒコバエにかからないよう注意するとともに、必要に応じて散布前にヒコバエの除去を行う。
かんきつ			多 年 生 雑 草		
			一 年 生 雑 草		
			多 年 生 雑 草		
			ス ギ ナ		
			マルバツユクサ		
果樹類 （かんきつを除く）			ラウンドアップ マックスロード グリホサートカリウム塩		
かんきつ	多 年 生 雑 草				
	ス ギ ナ				
	マルバツユクサ				
オリーブ（葉）		一 年 生 雑 草			
		多 年 生 雑 草			
		ス ギ ナ			
		マルバツユクサ			

果樹

果樹

作 物	農薬名（成分含量）	特 性	対象雑草名	処理法	使 用 上 の 注 意 事 項
果樹類 （かんきつを除く） かんきつ	タッチダウンiQ グリホサートカリウム塩	非選択性の吸収移行型の除草剤で、茎葉部から吸収され、主として芳香族アミノ酸の生合成阻害によって殺草する。	一 年 生 雑 草	雑草茎葉散布	1. 散布後2時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見極めてから散布する。 2. 他はグリホスの項に準ずる。
			多 年 生 雑 草		
			ス ギ ナ		
			一 年 生 雑 草		
			多 年 生 雑 草		
			ス ギ ナ		
果樹類 （かんきつ、パイナップルを除く） かんきつ	サンダーボルト007 グリホサートイソプロピラフルフェンエチル	同上	一 年 生 及 び 多 年 生 雑 草	雑草茎葉散布	1. ピラフルフェンエチルを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 2. 他はグリホスの項に準じる。
かんきつ かき もも ぶどう キウイフルーツ びわ なし いちじく	バスタ液剤 グルホシネート	非ホルモン型吸収移行性の非選択性除草剤であり、体内に移行し、グルタミン合成酵素の作用を阻害し、アンモニアを過剰に蓄積させ光合成を阻害し殺草する。	一 年 生 雑 草 多 年 生 雑 草 （いちじくは除く）	雑草茎葉散布	1. 茎葉に薬液が飛散すると薬害を生ずる。 2. 散布後6時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見極めてから散布する。 3. 接触型で土壌処理効果はないので、雑草に均一に散布する。 4. 冬場は効果の発現が遅れることがある。
みかん	ツバサ顆粒水和剤 グルホシネートフラザスフロロン	非選択性の吸収移行型の除草剤で、茎葉部から吸収され、主として芳香族アミノ酸の生合成阻害によって殺草する。 選択性の吸収移行型の除草剤で、茎葉部から吸収され、アミノ酸生合成阻害によって殺草する。	一 年 生 雑 草 多 年 生 雑 草	雑草茎葉散布	1. 多年生イネ科雑草のうち、ススキ、ヨシ、チガヤ等の大型雑草に対しては効果が劣ることがある。 2. 幼木には使用しない。 3. 温州みかん以外のかんきつ類には薬害を生じるので使用しない。 4. 砂質土や透水性の大きい土壌では薬害を生じる場合があるので使用しない。
果樹類 （かんきつ、りんご、びわ、いちじく、くり、キウイフルーツ、食用桑（果実）、さんしょう（果実）を除く） かんきつ、びわ キウイフルーツ	ザクサ液剤 グルホシネートPナトリウム塩	非ホルモン型吸収移行性の非選択性除草剤であり、体内に移行し、グルタミン合成酵素の作用を阻害し、アンモニアを過剰に蓄積させ光合成を阻害し殺草する。	多 年 生 雑 草	雑草茎葉散布	1. 散布後1時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見極めてから散布する。 2. 他はバスタの項に準じる。
			一 年 生 雑 草		
			一 年 生 雑 草 多 年 生 雑 草		

作 物	農薬名（成分含量）	特 性	対象雑草名	処理法	使 用 上 の 注 意 事 項
かんきつ	ダイロン DCMU	非ホルモン型の非選択性除草剤であり、茎葉部または根部から吸収され、葉に集積し光合成を阻害し、殺草する。	一 年 生 雑 草	雑草茎葉散布	1. 防風樹の根圏には薬液を散布しない。 2. 他作物特にイネに対して薬害が著しいので、薬液が飛散、流入するおそれのあるところでは使用しない。 3. 使用器具の洗浄液は薬害のおそれのないところへ処分する。 4. 展着剤の加用は効果を高くする。 5. 宿根草は地上部を枯死させるが再生は早い。 6. 夏期の高温乾燥期に薬液が葉にかかると落葉等の薬害を生ずるおそれがある。 7. 長期間乾燥が続くと効果が劣るので梅雨明け前に散布する。ただし、激しい降雨が予想される場合は使用を避ける。 8. 定植後2年未満のかんきつには使用しない。
				全面土壌散布	
	カーメックスD DCMU		一 年 生 雑 草	雑草茎葉散布	
				全面土壌散布	
かんきつ	ダイロンゾル DCMU		一 年 生 雑 草	雑草茎葉散布または土壌散布	
もも ぶどう				土壌散布	
かんきつ	シンパー ターバシル	非ホルモン型の非選択性除草剤である。	一 年 生 雑 草	雑草茎葉散布	1. 茎葉処理の場合は気温20℃以上の高温条件で使用するが望ましい。 2. 茎葉処理の場合は、非イオン系展着剤を加用し、雑草によく付着するように散布すると効果が高い。 3. 他はDCMU水和剤の項に準ずる。
				全面土壌散布	
かんきつ	ゾーバー ターバシル DCMU	非ホルモン型の非選択性除草剤である。	一 年 生 雑 草	土壌全面散布及び雑草の茎葉散布	1. 他は、DCMU水和剤（ジウロン水和剤等）とターバシル（シンパー）の項に準ずる。
温州みかん	ハイパーX プロマシル	非ホルモン型の吸収移行性除草剤であり、根部から吸収され殺草する。	一 年 生 雑 草 多 年 生 雑 草	雑草茎葉散布または全面土壌散布	1. 留意事項はDCMU水和剤の項に準ずる。 2. 施設栽培では使用しない。
もも なし	カソロン粒剤6.7 DBN	非ホルモン型の吸収移行性除草剤であり、根部から吸収され殺草する。	ギシギシ、ヨモギ、タンポポ、ヤブガラシ等の多年生広葉雑草	雑草の株元または成長点に局所処理する	1. 急傾斜地などの土壌流亡のおそれのあるところでは使用しない。 2. 移植後3年未満の園地では使用しない。 3. 施設栽培及びその周辺では使用しない。 4. 均一に散布しないと効果にムラがでる。 5. 草丈が大きくなると効果も低下するので処理時期を遅らせない。 6. 薬剤処理後に土壌と混和すると薬害を生ずるおそれがあるので土壌混和はしない。
もも	トレファノサイド乳剤 トリフルラリン	非ホルモン型の除草剤であり、根部及び幼芽部から吸収され側根の形成を阻害したり、幼芽部の細胞分裂を阻害し発生を抑制する。	一年生雑草（但し、ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く）	全面土壌散布	1. 中耕後に使用する。 2. 発芽後処理は効果がない。 3. 土壌が非常に乾燥しているときは、土壌表面散布は効果が劣る場合がある。 4. 施設栽培では使用しない。